

# 「通信を発行する意義と役割・その成果」

大分市立大在中学校 校長 佐藤 治行

## I. はじめに

各種通信（資料1）を書き続けて38年。今振り返ると「良く続いたなあ」と思う。38年前、教員に採用され、小学校4年生の担任になった。当時小学校では、毎週週案（次週の授業内容や準備するものを一覧表にしたもの）を保護者向けに発行していた。当時は、パソコン等もなく、全て手書きであった。B4の原稿用紙の半分に週案、もう半分に担任の思いや児童の学校での様子を伝える「通信」（資料2）を書いたのが始まりである。それ以来、今日に至るまで、様々な立場で、様々な人たちに様々な「通信」を発行し続けた。その間、作成の手段は「手書き」から「パソコン」へと変化した。また、毎年学校新聞教育研究会が主催する「学年・学級通信コンクール」が実施されており、出品することで多くの優秀な作品を目にし刺激を受けて、自分の作成する通信の紙面構成や記事の内容を工夫し、読者に親しまれる通信づくりに精進した。以下、それぞれの「通信」の意味するもの、成果や課題等を分析したものを記録として残したい。

## II. 通信を発行する意義と役割

通信発行の「意義と役割」は、受け取る対象（児童・生徒、保護者、地域の方、同僚、部下）に応じて様々である。これまで各種通信を書き続けてきた者として、受け取る対象者からのアンケートや生の声等を通して得た内容を下記にまとめてみた。

上段は生徒・保護者・地域向け、下段は教職員向けである。

	各通信の意義	役割
生徒	定期的に担任や学年、学校の思い、学校・学級の様子を伝える	情報発信
	生徒の「成長・課題」を、学校と家庭で共有できる	交流の場
家庭向け	保護者の思いを、学校と家庭で共有し、考えることができる	懇談会の充実
	書くことで先を見通し、過去を振り返ることができる	見通しと評価
	指導要録や通知表、調査書等の記入に、参考にできる	文書等の資料
教職員向け	会議等の時間がとれない中、各自に伝達内容が伝わる	時間の効率化
	管理職や分掌の取組の方向性や進捗状況が分かる（見える化）	取組の共有
	反省等を次の活動や次年度に活かすことができる（見える化）	評価と行動
	教職員の発行する通信の参考や自己啓発・研修に役立つ	若手等育成
	新たな気付きがあり、生徒や保護者に語りかけられる	視野の拡大

## III. 各種通信の内容（別添資料②～⑩）

### 1. 学級・学年・進路・学校通信（生徒・保護者・地域向け）資料②～⑩

学級	担任の思いや願い（こんな学級にしたい、こんな生徒に育てて欲しい等） 生徒の活動の様子や生徒の思い、連絡（行事や提出物等のお知らせ） 保護者への働きかけ、学級懇談で話し合いたい共通議題について
学年	学年主任や担任からの願い、生活や学習についての取り組みや反省・課題 学年生徒の活躍や考えの紹介、家庭での話題提供、アンケート評価

進路	キャリア教育の紹介、進路決定までの流れの紹介、企業が求める人材について体験活動の紹介、各高校等の紹介、提出物の案内 受験に向けての特集（面接内容や論文等の内容紹介）
学校	学校経営の紹介（年度の重点的取組内容等）、校長の思いや願い 各学年・全校行事や生徒・生徒会活動の様子紹介 お知らせ（お願いや連絡）、学校評価結果の公開、学校と地域の関わりの紹介

## 2. 教科通信（生徒向け）資料⑪～⑫

数	授業の様子紹介、定期テスト等の結果や誤答例の紹介
楽	数学のおもしろさや歴史等の紹介、数学問題を紹介し解かせる（数学への興味）

## 3. 学年部・研修部・教務部通信（同僚向け）資料⑬～⑱

学年	学校経営の重点目標達成に向け、学年各分掌への指導・支援、課題の共有 学年職員へ「学年経営」の具体的取組紹介、毎週の出来事・提出物の確認 学年の分掌の反省と課題解決に向けた取り組みの確認、生徒の頑張り紹介
研修	校内研修の見通し、時宜にあった国・県・市の取り組みの紹介 互見授業や校内研修の紹介と確認、若手職員向けのアドバイス 教職員の研修に対しての声の紹介、教員用購入図書を紹介
教務	学校経営の重点取組について各分掌への働きかけや進捗状況の共有と徹底 毎週の出張・提出物の確認、月ごとの行事等の反省と課題の確認 各学年の取組や生徒の頑張り紹介、時宜に応じた教育界の話題提供

## 4. 教頭・校長通信（教職員向け）資料⑲～⑳

教頭	校長の学校経営（重点目標）の進捗状況の見える化、各分掌への指導 毎週の出張及び提出物の確認、教職員に向けての諸注意 教職員向け教育界の話題提供（国県市の取組内容）
校長	学校経営の重点目標の具現化と見える化（共有と徹底） 校長会（市教委主催・校長会主催）の連絡事項の内容共有と徹底 職員に向けた教育界（国県市）の話題提供及び地域の活動情報発信

## IV. 各種通信発行を通しての成果

家庭訪問やPTA懇談会以外には、なかなか保護者に学校のこと等を伝えられない状況がある。児童・生徒の頑張りや担任や学年主任、校長としての思いは、時宜に応じて発信していかないと時機を逸してしまい、思いも伝わらない。そして、保護者の信頼は得られない。これまで各種通信を通して、保護者といろいろなことについて情報交換や会話ができた。担任の思いを汲み取り、応援もしてくれた。悩みや困りごとを話す中で解決できた思いがある。また、各種主任の時には、立場に応じて同僚に語りかけたり、注意もしてきた。定期的に発行することで取組が継続し、進捗状況や成果と課題が同僚に共有され、取組の徹底ができたように思う。今も当時の通信を保存し、参考にしているという元同僚の声を聞くに付け、発行し続けて良かったと思う。当時の取組が、今なお継続されていると感じる。

以下、それぞれにの通信に対する生徒・保護者・同僚の感想や意見である。

## 1. 生徒・保護者向け通信（学級・学年・進路・学校）に対する感想・意見

- 子どもたちの様子や頑張り、学校や学年の様子が通信を通してよく分かる。
- 学級担任の思いや学年の方針が伝わってくるので、親としてどう関わっていけばいいのかがわかりやすい。進路だよりは、子供の進路決定に向け、手続きのことや進路決定に向けての親の関わり方がよく分かる。保護者同士の共通の話題にもなっている。みんなの考えや意見を通信を通して知ることができて良かった。
- 自分の名前が載ると、名前に印を付けて、大切に保管している。
- 通信が、家庭と担任の橋渡しになって、会話ができています。
- 卒業した後、これまでの通信を読み返して、懐かしく見直しをしている。
- 友だちの考えや意見を、通信を通して知ることができ、いろいろな考え方や解き方があるのが分かって良かった。数学の楽しさが分かった。

## 2. 同僚向け通信（学年部・研修部・教務部）に対する感想・意見

- 学年主任の考えや学年の具体的な取組が常に確認でき、安心して取り組める
- 反省と振り返りができ、次の参考になり、無駄が少ない。
- 研修内容が確認でき、みんなの考え方が共有できる。先の見通しが立つ。
- 月ごとの反省がこまめに出され、その反省が次に活かされる。
- 教育界の話題がこまめに出され、大変勉強になり、資料づくり等に役だった。

## 3. 教職員向け通信（教頭・校長）に対する感想・意見

- 学期や月・週ごとの目標や教室の様子、評議員さんの助言など内容豊富な情報ありがとうございます。その時期の「押さえどころ」が満載でした。
- 時間がある時にゆっくり見られるので、内容が十分伝わってきた。また、会議が少ない中だったので、効率が良かったです。
- 学期末事務を明記して頂き、ミスもなく確認できました。また、出張や提出物はうっかり忘れてしまいそうな時に、いつもお便りでチェックしていました。
- 自分も通信を発行していたので、とても参考になりました。また、自分も見えていない部分が教頭だよりを通して知ることも多く、助かりました。
- 今の自分たちの生活や姿を見直すポイントやコツを〇ヶ条でまとめてくれたこと、短学活で話をする時にもヒントを頂き参考にさせて頂きました。
- 陰で頑張っている職員を通信の中でねぎらって下さったり、カラーで写真を載せて下さったり、そのたびに嬉しくなり、やる気が出ました。学級通信を読む生徒は、こんな気持ちなんでしょうね。教頭先生は職員室の担任のようでした。

## V. 通信をさらに充実させた取組とその成果

### 1. 自分の思いを書くノート

担任をしている時は、「自分の思いを書く」ノートを全員に持たせた。そのノートには行事等の感想をよく書かせた。道徳の授業では自分の思いや仲間の思いを受けての感想も書かせた。さらに、ことあるごとに課題（テーマ）を与えて、文章を書かせた。最初2、3行しか書けなかった生徒も回を重ねるごとに、5行から10行、そしてノート1ページにまで書けるようになった。書いた内容は通信に載せ、紙面上が生徒の交流の場になった。そして、いろいろな思いや考えが

あることを知り、自分の次の文章の参考になっていった。

## 2. 保護者の交換ノート

子どもだけではなく、保護者の思いや困りも通信の上で公開し、PTA懇談会の時だけではなく、日頃から親同士のつながりをも強めたかった。子育て等の困りや悩みを共有し、一緒に子育てをしようとして「保護者交換ノート」を利用した。ノート2冊を男女の出席順に回したが、予想以上にいろいろな文章の会話がなされ、驚かされた。共通した内容は、また通信上で交流の場になった。合わせて、PTA懇談会でも話題になり、充実した懇談会が行われた。

## 3. 学級劇

学級では、自分の思いや仲間の思いを考える手立てとし、学級劇を実施した。日頃自分の思いや仲間の思いを、いろいろな場（学級や通信上でも）で共有することができているので、劇も、みんな熱を入れた実施することができた。この頑張りや思いは、また通信で家庭とも共有できた。頑張りや思いを載せることで、生徒のやる気や自尊感情はしっかりと高まっていった。

## 4. 校長先生のお話ノート

校長となり、全校の前で話すことが多くなった。私の話をどれだけ理解してくれているのか。どれだけ聞いてくれているのかを知る手立てがなかったので、「校長先生のお話」ノートをつくり、朝会の後、各学年の数人に感想を書いてもらう取組を実施した。しっかりと思いを受け止め、またそれに対する意見等も書かれ勇気が湧いてきた思いがある。話を聞く姿勢も集中力もだんだんと育っていった。

## 5. Growthノート

校長2年目、代表に書かせるだけではなく、書かせる取組を全校に広げていった。自分自身が担任の時学級でやっていたことを全校に広げたのである。全校生徒にノートを持たせ、ことあるごとに、自分の思いや仲間の考えを通しての自分の思いを書かせた。最初数行しか書けなかった生徒も、回を重ねるごとに単語から文章へと広がり、自分の思いを十数行からノート1ページにわたって書けるようになった。この感想等は、また、学校だより等を通して家庭や全校に広報していくことになった。

## VI. 通信発行でのメリットと課題

38年間の通信発行で、自分なりに得られたメリットと今後の課題について、下記にまとめてみた。最近では新聞や本を読まなくなった人が多くなったという。活字離れである。インターネットやスマホ等の発達で、情報や小説等はパソコンやスマホから得ているのが実情である。手紙のやりとりはメールのやりとりに変わった。文章ではなく、単語や短縮された文章や絵文字に変わった。そのように時代が変化しても、学校や学級から発信される便りは、保護者や地域の方にとっては、インターネット等からは得られない大切な宝となる情報が満載されていると言っても過言ではないと思う。実際学校のホームページ上の学校だよりはよく読まれているようである。

## ※派生する利点と発行に向けた課題

派生する利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者等との間に信頼関係が築ける（信頼を寄せてくれる）</li> <li>○通信が子ども同士・親同士・教職員同士をつなぐ（三者をつなぐ）</li> <li>○子どもが、いろいろな「考え方や見方」があることに気付いてくれる</li> <li>○いろいろな文章を読むことで、生徒自身の文章力もついてくる</li> <li>○文書を読み解くことで、集中力もついてきた</li> <li>○教師に、子ども達をいろいろな視点から見る「目」が鍛えられる</li> <li>○学校と家庭、家庭と家庭、地域を巻き込んだ交流の場になる</li> <li>○子どもが成長した跡、振り返りができ、また子に教えることができる</li> <li>○教師の足跡が記録される（次に活かされる）</li> </ul>	
発行の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲継続して発行する自信がない</li> <li>▲書く時間、書くネタがない</li> <li>▲書き方が分からない</li> <li>▲子どもたちに大切にしてもらえるか</li> <li>▲担任の思いが伝わるのか、反応が怖い</li> <li>▲発行しなくても、学級経営はできる</li> </ul>	<p>※学級通信を発行したいが、左の理由等で、なかなか一步を踏み出せない若い先生がいる。定期的に出せればいいが難しいかもしれない。書く内容はたくさんあるのだから、まず一号を出してみてもはどうだろうか。</p>

## Ⅶ. 終わりに

今、我が校でも学級通信や学年通信、進路通信、小中一貫だより等、各種通信が発行されている。それぞれの思いが、通信を通して伝わってくる。そこには、担任や学年の生徒に向き合う真摯な姿や温かな思いが伝わってくる。日々忙しい中で、通信の発行を通して学級経営や学年経営を行っている。通信を発行する教職員をこれまで身近に見て感じるのには、概してその先生のきめ細かい、生徒に対する温かさが伝わってくる。また、保護者もその通信を通して、担任の思いを感じ取ってくれている。担任への信頼も高く、非常に協力的である。校内でも中心的な分掌を受け持っているが、適切な企画・運営を行い、効率よく職務ができています。また、通信を通して、先を見通した計画を立て、時間に余り追われることがない。通信が、記録として残り、生徒の通知表や調査書等への記入にも困りを感じない。多忙を極める学校現場ではあるが、生徒を思い、家庭との連携をさらに深める通信作りをこれからも継続して取り組んで欲しいと思う。私にとっての学校現場での通信作りは終わることになるが、今後は、これまでの通信をしっかり分析し、まとめ、一冊の冊子にしていきたいと思う。これまで私の通信を読んでもくれたり、保存して温かな励ましをくれたりした生徒、保護者、地域の方、同僚等に感謝をしたいと思う。

## Ⅷ. 資料（別添）

- 発行通信一覧表                      ○学級・学年・進路・学校通信（保護者向け）
- 教科通信（生徒向け） ○学年部・研修部・教務部通信（同僚向け）
- 教頭・校長通信（教職員向け）
- 通信作りに使用した参考図書・カット集等